

第2次木津川市生涯学習推進計画策定委員会 開催結果要旨

会議名	第2次木津川市生涯学習推進計画(第4回)策定委員会		
日時	令和6年2月9日(金) 13時30分~15時10分まで	場所	市役所 5階 全員協議会室
出席者	委員	前平委員長、高原副委員長、木村委員、生田委員、河口委員、市川委員、米田委員	
	事務局	竹本部長、吉岡次長、東村課長、藤田課長補佐、秋元係長、堀係長	
<p>1.開会 事務局より開会を宣言した。</p> <p>2.事務局挨拶 教育部長より開会にあたり次のとおり挨拶があった。</p> <p>これまで3回の委員会において、様々な視点から生涯学習推進へのご意見をいただき、中間案を取り纏めていただいた。この中間案に対するパブリックコメントについて、報告させていただき、これについての対応のご確認と策定委員会としての計画の取り纏めをお願いしたい。これまでの熱心な審議にお礼を申し上げ、本日も活発な意見交換になるようお願い申し上げます。</p> <p>3.議事 ○第2次生涯学習推進計画(答申案)について ・資料1を基にパブリックコメントの実施結果について、事務局より説明を行った。</p> <p style="text-align: center;">(特に意見なし)</p> <p>・資料2、3を基に計画の答申案について、事務局より説明を行った。</p> <p>(委員長) 答申案の説明について、質問等あればお願いしたい。 なければ、各委員から今回の計画についての感想をお願いします。</p> <p>(委員) これまでのワーキング委員会の中でいろいろ指摘が出て、修正するのにご苦労いただいたと思う。先日のワーキング委員会時に気付いていなかった部分やこの計画が完成した後、取り組みをどのように進めていくのかということで、思いを述べさせていただきたい。 15ページ基本目標2ところを結ぶ(1)の具体的な取組に「放課後子ども教室の充実」とあるが、どのようにして充実を図るのか。担当者を増やす充実なのか、実施する学校を増やし、最終的に全小学校へ広げるという充実なのか、それについて、教育委員会でしっかり考えていただきたい。 次に16ページの「地域学校協働本部」について、現在、全ての中学校において、支援本部か</p>			

ら協働本部に移行して取り組んでおられる。これについても今後どのように充実を図っていくのか検討が必要である。

15ページ(1)の具体的な取組に「部活動地域移行事業の検討」とあるが、木津川市において、事業を検討するような段階まで来ているのかという点が気になる。部活動の地域移行については、令和5年にスポーツ庁で提言され、全国的にも徐々に増えてきているが、今はまだテスト的に行っているような段階なので、事業というよりも、まず市として体制、受け皿を整備していくことを行っていく必要があると思うので、「地域移行の検討」で良いのではないかと。

16ページのコミュニティ・スクールの件について、④に「コミュニティ・スクールとの一体的な推進を図ります。」とあるが、全国的にも6、7割が行っており、木津川市では3校ということで、文章の中身に問題がある訳ではなく、これについても今後どのように推進を図っていくのかということが気になったので、今後しっかり進めていただきたい。

(委員)

資料2の3つ目の修正内容について、これを読むと全部成果を発表する場なので、「できる場の提供を行い、」という部分が気になる。音楽フェスタ、公民館まつり、市民文化祭、講座発表会、これらは全て発表の場である。これらを開催して、学んだ成果を発表できる場の提供を行う。という表現の方が良いのではないかと。

施設の面については、改善のことやこれからも行っていくということが定義されており、実際に使用している者としては、心強く思っている。ただ、現在、木津川市には3つの大きな会館があるが、場所的な問題なのか統一できていない感じがあり、今後3つが上手く発展していくような検討が必要であると思う。

(委員)

資料2の3つ目のところで、「スポーツの面においても市民運動会や歴史めぐりマラソン、市民スポーツ大会・教室等、各種スポーツイベントを開催することによりスポーツに親しみ、市民が交流できる機会を作ってきました。」とあるが、その機会は、市が作ったのか、それともスポーツ団体が作ったのか、これでは市がやってきたというように読めてしまうが、どうか。

(委員)

パブリックコメントやワーキング委員会でも沢山意見が出て大変だったと思うが上手く取り纏めていただいたと思う。先ほど意見があったように、コミュニティ・スクールや放課後子ども教室の件については、これから益々充実を図っていかないといけないというのが問題ではないかと思っている。計画については、本当に良く出来ていると思うので、感謝申し上げたい。

(委員)

この計画は、生涯学習を進めて行く上での指針となるので、細かい記載は難しいと思うが、16ページのところで「地域学校協働本部」とあるが、私もボランティアをさせていただいており、「登下校時の安全指導」ということで、加茂町時代に作られたKSSVというのがある。同じように木津地域、山城地域にもそのような活動をされている組織があると思うので、登下校時の安全指導の後に注釈として、そのような名称を入れた方が分かりやすいのではないかと。

先ほどのスポーツの件であるが、私もスポーツ協会に加盟して活動をしている。ここに記載するのであれば、もっと市全体で取り組んでいるというところを前面に表現していただきたい。スポーツ協会だけでやっているのではなく、市全体でやっているというアピールが凄く弱いと感じるので、その辺の表現を工夫したらどうか。

(委員)

これまでの皆様のご意見等、非常によく反映されており、色々なカラー使いをされ、イラストや写真を使って見やすく、大変良くまとまっているというのが率直な感想である。

パブリックコメントの意見になるが、資料1の2番目に平成26年に策定してから平成30年に見直したきりで荒いのではないかと、というご意見がある。私が思うには、5年間というのは非常に長い期間であると思っており、例えば、5年前を考えた時、コロナやロシア、ウクライナの戦争等はなかった。この5年間でいろんな事が変わるので、5年というのは凄く長く感じる。そこで、この計画が今後10年間有効となるが、10年後に世の中がどのようにになっているかと考えた時、もっと見直しを頻繁にやるべきではないかと思う。毎年PDCAサイクルの見直しを行っていくが、そうではなく、この計画自体を今後10年ではなく5年ぐらいに締めてやった方がより実践的ではないかと思う。

(委員長)

各委員の意見に対して、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

放課後子ども教室の充実については、現在、教室は7校に留まっているが、開設していない学校での開設も見据えると共に、内容の充実にも取り組んでいきたいと考えている。

地域学校協働本部についても、積極的にボランティアの募集をかけて、より多くの方に参加いただけるような充実も図っていききたいと考える。

クラブ活動の地域移行に関しては、学校教育課で登録指導員制度を令和5年度からスタートさせ、既に1名の登録があると聞いている。近隣の市町村でも検討会を立ち上げておられるので、他市町も参考にしながら取り組んでいきたいと考えている。

7ページの(3)については、ここは、市民一人一人が生き生きと輝いて充実した人生を送っていただくという流れの中で、こういった場を設けて、市としても各種関係団体の協力を得ながら事業を開催し、そのような機会を作ってきたということで、ワーキング委員会等の意見を踏まえてこのような表現とした。

生涯学習を支えているのは市だけでなく、関係する各種団体、いろんな関係団体があるが、そういった団体と市が一体となって進めていくものであると考えている。スポーツに関しては、マラソン大会や市民運動会についてはスポーツ協会が主体となって行っているが、この計画においては個々の主体となるようなところまで書き込むと細かくなってしまったため、そのような協力団体も含めて全体で進めていったということをご理解いただきたい。

地域学校協働本部の登下校時の安全指導の注釈の件であるが、一般的な登下校時の安全指導ということで、ボランティアを募集する際も中学校区単位で募集しているが、この言葉が一般的で分かりやすいと思うので、これでいかせていただきたい。

10年が長いという件については、本計画は10年先を見据えた計画としているが、確かにこの5年間を振り返るだけでも凄く時代が変化しており、コロナをきっかけに生涯学習の分野においても様々な変化があった。次回計画策定にあたっての参考にさせていただきたいと思う。

(事務局)

補足をさせていただく。この計画を作るのが目的ではなく、これをどのように進めていくのが重要で、市として方向性を持って進めていくことで、市民の皆様の生涯学習、生涯スポーツがどのように発展できるか、今後の取り組みが大事だと思っている。

この計画においては、今後の木津川市としての生涯学習の進め方、方向性等の指針となるべきものであり、ここで具体的に事業を挙げるといったことではないと考えている。

毎年、教育委員会では、生涯学習推進計画に基づいて、「社会教育の重点」を作っており、それに基づき、その年度の取り組みを進めているので、個々具体的な事業については、その辺りで捉まえていくことになるのではないかと考えている。

3ページにもあるように、計画の期間については10年間の計画であるが、5年後に後期の見直しを行うことになっている。第1次の計画においても10年間の計画で、5年後に見直しということまでは至らなかったが、それぞれの事業を検証しながら進めさせていただいたところである。今後も、PDCAサイクルで見直しを行いながら、次の進め方を検証していくことになるので、計画自体を短いスパンで見直すことは難しいと思う。実際に進める中で新たな課題が見つければ、それについて重点的な事を進めるということは、させていただけるかと思っているので、ご理解いただきたい。

登下校の見守りについては、加茂町ではKSSVということで、見守りの活動をしていただいていた。登録をしていただいている方が、ご高齢になり続けることが難しくなったり、亡くなられたり、その登録制度自体が今も継続できているのかは難しいところであると思っている。各地域で見守りのボランティアを行っていただいていることで、子どもたちの安全が守られており、継続していただいていることについては感謝申し上げるところである。ボランティア団体のグループとしての取り組みが、木津、加茂、山城であるか、ないかというのは、教育委員会でも全部把握はできていないところである。ただ、各学校において、協力いただいているボランティアの方々への把握はされていると理解している。どこの学校区においても、高齢化によって、ご協力いただいている方が少なくなっていることは事実なので、それぞれの学校の状況により、地域長等を通じて新たなボランティアのお願いなどをさせていただいているのが現状である。

(委員長)

答申案に対して委員から意見があったことについては、事務局から一つ一つ答えていただいたと思う。

この計画の答申案を読ませていただき、委員の方からもあったようにカラフルで見やすくなっていると感じた。本計画については、生涯学習に推進という言葉が入っているのがポイントであると思っており、全ての生涯学習のことを何でも書き込む、或いは、それを市が介入するというか、考えるということではなく、全体として推進していくという方針だと私は受け取っている。そういう意味では、とても良い推進計画になったのではないかとと思う。確かに10年というのは、今の時代では長いサイクルなので、もう少し短いスパンで見直しを行っていただく必要があるのではないかと考えた。というのは、生涯学習ということ自体が学校教育とは違って、ハプニングというか、何が起こるかが分からないという未来に対してもある種の心構えを持つことの重要性を説いているからである。たまたま偶然に起こったことでも何でも想定外といって済ますのではなく、ハプニングにも対応できる学習が生涯学習である。近い未来の起こり得ること、起こるかわからないというようなものに対しても、生涯学習は関わっていけるというような姿勢を持っていたらと、より生涯学習の推進の意味が出てくるのではないかと考えた。

文言等について、どうしてもここを変えて欲しいというような意見があればお願いしたいが、いかがか。

(委員)

先ほどのKSSVの件については、丁寧に答えていただき、感謝したいと思っている。ただ、その中で教育委員会として組織が薄く思う。この件に関しては、ホームページにも掲載されており、木津川市教育委員会で通信も発行されている。この通信については平成31年に出されているが、その後更新されていない。このように公的なホームページにも載っているのに、市としても、もう少し意識を持った対応をお願いしたい。

(委員長)

文言の修正ではなく、要望ということで事務局には願います。

(委員)

先ほど、事業の主体についてどこが行っているか細かくは入れないと言われたが、それはなぜか。

(事務局)

生涯学習の推進にあたっては、先ほども申し上げたとおり、各種団体と市が一体となって進めて行くものであると考えており、そういったものを全て含めた上での計画ということで、沢山の事業が出てくるが、それについては、木津川市から補助金を出して行っている事業も沢山あるので、そういったことを一つずつ挙げていくと細かい個別の事業を書いていくことになるので、この計画については、木津川市として生涯学習を推進していくための方針となる計画で、個別的な計画ではないので、そういった記載で統一させていただきたいと考えている。

(委員)

それなら歴史めぐりマラソンといった文言はいらぬのではないか。

(事務局)

歴史めぐりマラソンについてはスポーツ協会で行っていただいている事業ではあるが、市民にとってはスポーツに親しむ機会ということになるので必要である。

(委員)

文化協会やスポーツ協会という団体名を載せることはできないのか。載せたらおかしくなるのか。これでは市が全部行っているように見える。推進していくのは分かるが、誰の力を借りて推進していくのかというのが、これでは見えてこない。そのような表現にするのであれば、載せなくてもスポーツを推進しますだけで良いのではないのか。

(事務局)

スポーツ協会が主体となっているというような、実施主体のことまで各事業に書いてはいるが、そこはご理解いただきたい。

(委員)

7ページの上の文章には、青少年育成委員会やスポーツ推進委員会というのが出てくるが、他のことに対して載せるのはおかしいと言われたら、疑問に思う。

(事務局)

生涯学習や生涯スポーツについては、スポーツ協会、文化芸術協会、公民館サークル等、様々な団体で頑張っていただいている。それとは別に、これまでも団体に所属されている活動だけが全てではないといった話があったかと思うので、どこがやっているというより市として、どのような方向で進めていくかという計画なので、それと同じ方向を向いているスポーツ協会、文化芸術協会、公民館サークル、そこでの活動というような捉まえ方では納得いただけないか。

(委員)

それでは納得できない。

(委員)

今のご意見で、文化芸術協会やスポーツ協会は補助金をもらっておられるが、公民館サークルは補助金をもらっていないので、ここには書かれていないと思う。そのような違いがあり、今、文章を見させてもらい、同じようにと説明があったので、それだけは言わせていただきたい。

(事務局)

木津川市としての社会教育、生涯スポーツを推進していただいている活動に対して列挙させていただいているものなので、それぞれ皆さん自主的に個人でいろんな活動されてることも生涯学習の一つだと思う。

(委員長)

問題としていることは、もう少し具体的にだれが主体になってやってきたということを明記すべきだということか。この推進計画の答申案に関わることにに関して言うと、そうではないのか。

(委員)

意見については、この書き方では市が主体となっているので、実際、運動会等についてはスポーツ協会が主体でやっておられるので、ここにスポーツ協会と書いていただけないかという意見だと私は理解している。

(委員)

7ページのところで、私が意見したことについて、違った形で取られたみたいで、申し訳なく思っている。資料2の3の改正された内容が、改正前の方が近かったが、公民館まつりや市民文化祭・講座発表会、各種活動発表会等で学んだ成果を発表できる場の提供と書かれている。私の読み違いか分からないが、公民館まつりや市民文化祭、講座発表会は、学習の場ではなく、発表の場である。それが各種活動発表会等で学んだ成果を発表できるということで、ここは学ぶところではなく、発表の場なので、おかしいということを使った訳である。それがスポーツ協会の方に違った意味で取られてしまい申し訳ないと思っている。学習の場と発表の場が混ざって意味がおかしいという提案である。

(事務局)

ご指摘の件については理解した。文言の整理をさせていただく。

(委員長)

今の文言整理は、どのようになるのか。

(事務局)

表現を検討するので、事務局預かりとさせていただきたい。

(委員長)

先程の事業実施主体についてのご意見は、いかがか。

(委員)

市民運動会や歴史めぐりマラソンについては、スポーツ協会では特に大きな2つの事業であり、この書き方では市が主催で行ったという受け取り方しかできないと思うので、例えば、スポーツの面においてもスポーツ協会主催の市民運動会や歴史めぐりマラソン、また市民スポーツ大会・教室等としてはどうか。それについて何か支障があるのか。

それと、最後なので細かい修正点について、申し上げてよろしいか。

(委員長)

文言の修正は、ある程度可能だが、全体となると難しいところである。

(委員)

細かい文言の修正である。

例えば、4ページのPDCAサイクルの図のCHECKの説明部分、「の」が重複している。

6ページの(1)の3段落目、文章に「や」が多いので、「広報紙への折り込みや生涯学習情報誌」、この部分の「や」を「、」にした方がよい。

部活動の地域移行事業の部分について、事業を取るか取らないか検討していただきたい。私は取った方がよいと思う。

16ページ、地域学校協働本部の注釈のところ、パブリックコメントの回答の部分にも出てくるが、2行目「授業や部活動の指導補助等」とあるが、ここの「等」はない方がよい。

21ページ、アンケートの(5)の枠の説明部分、「(3)同様、「趣味を楽しむため」に取り組んでおられる方が50%」という表現になっているが、簡潔に「(3)同様、「趣味を楽しむため」が50%」にした方がスッキリするように思う。

27ページ、(14)の枠の説明部分、「地域の子どものためのレクリエーション」とあるが、下のグラフでは、「地域の子供のための」と子供が漢字なので合わせる必要がある。

訂正をお願いしたいのは以上である。

もう1点、16ページの④子ども達の学びや成長を支える体制(地域学校協働本部)の充実を目指すと共にコミュニティ・スクールとの一体的な推進を図ります。とあり、一体的な推進を図ると書いてあるが、現実に地域学校協働本部は中学校全部で作られていると思うが、コミュニティ・スクールは中学校には全くなく小学校3校にしかない。京都府では、府立学校は全ての学校で学校運営協議会が作られている。しかし、木津川市の中学校にはない。地域学校協働本部は中学校にはある。これで一体的な推進を図るとするのは納得がいかないという感じを受けるので、今後コミュニティ・スクールについて、どのように考えておられるのかというのが、先ほどのコメントに入っていなかったのでお願いしたいと思う。

(委員長)

この答申案については、文言の修正を除いて、これで答申として確定したいと思うが、いかがか。

(事務局)

問題になっているのはスポーツ協会の部分であるが、それを入れることに関して、他も確認し、市が直接ではなく、そういった団体をお願いして行ってもらっている事業が挙がっていれば、合わせる必要があるので、確認させていただき、委員の皆さんには文書にてお伝えをさせていただきたいと思うが、いかがか。

(委員長)

本日、教育長へ答申することはどうなのか。

(事務局)

お願いしたい。

(委員長)

答申は行いが、事務局で文言の訂正をしていただき、委員の皆さんからの合意があれば差し替えするというようお願いしたい。

それでは、資料3の第2次木津川市生涯学習推進計画の答申案となっているが、案の部分を消していただき、策定委員会として、計画案の内容を確定させていただく。

委員の皆さんには、いろんな見地から様々なご意見をいただき感謝申し上げます。  
では、答申の準備をお願いします。

(休憩)

(事務局)

本日纏めていただいた計画(案)について、策定委員会条例第2条の規定により、策定委員会から森永教育長へ答申していただく。

○答申 (前平委員長から森永教育長に対し、別紙のとおり答申された。)

(教育長)

令和5年7月に諮問させていただいて以来約7ヶ月にわたり、それぞれの立場から熱心かつ精力的なご審議を賜り、計画の答申を纏めていただいた。心よりお礼申し上げたい。また、策定委員会での審議を支えていただいたワーキング委員の皆様にも感謝申し上げたい。

今後の社会は、地球環境の問題、世界規模での感染症、大規模な自然災害などの負の側面と、急速に進化を続けるAIや、高度デジタル化の正しい活用による豊かさ幸せをもたらす希望の側面がある。そのような中、社会がどのように変わっても、人と人との温もりのある絆を大切にすると共に、社会変化に柔軟に対応していくことが求められている。そのため、今後この推進計画を指針として、市民の皆様の生涯学習施策の推進に努めて参りたい。

委員長をはじめ、委員の皆様には、今後も引き続き本市の生涯学習の進展に向け、ご指導ご鞭撻をお願いしたい。幅広い視点に立った答申をいただき、改めて心から感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。

5.閉会

事務局より閉会を宣言した。

以上

その他特記事項

傍聴者0人、報道関係者0人